

布基礎断熱一体打ちで工期が半分に

ピトン

ピトン（東京都、小村健太郎社長）は18日、秋田県仙北市の住宅新築現場で、新基礎工法「eLbase」施工現場見学会を開いた。当日は東北地方を中心に20人ほどが参加し、現場を見ながら細かい質疑応答を行った。

同工法は、広く普及しているベタ基礎と異なり、布基礎ベースの省施工法（付加価値の高い断熱一体打ちを簡易な施工方法で実現）により、耐震性と断熱性の向上に寄与する性能向上「基礎」となる。昨年の全国販売開始後も改良が進められ、今回は改良品による施工を匠伸住建（仙北市、鈴木武彦社長）の協力で公開した。



現在の住宅に求められる性能を持った基礎を工期短縮、コスト削減のうえで施工できる

工事内容は布基礎断熱一体打ち工法（eLbase）

（Nano）で、断熱型枠と鋼製型枠を使ったハイブリッド形式（外周にEPS、内周に鋼製型枠）、丁張りなし施工（匠伸住建オリジナル）、ダブルパーを使った省施工一体打ちなどを説明。新仕様として、外周部のEPS型枠は塗装下地処理付き、EPSの厚み40mm、強化シート付き（ハラム対策）が用いられている。

今回の現場では、ピトンに図面を送ることで割付、プレカットされた資材が届き、そこから組み立ては2時

間ほどで終了。下部のベースさえあれば、工事期間は約1週間と従来の半分で済んだ。片付けやさび止めなど現場の手間もなく、すべての工程の合計で3人セット、21人だった。現在、住宅に求められる各種の性能を持った基礎を労務時間短縮、

各種経費削減のうえで施工できる。基礎の職人不足のなか、同工法の導入を高齢の職人も復帰できたという。匠伸住建は、現在でも現場とやり方を交えてさらなる効率的な工夫ができないかを模索している。「お客はコストに敏感で、

特に宣伝しているわけではないが、今年も8棟ほどの受注が既に入っている」（同社）。ピトンでは、今回の施工見学会の動画をYouTubeにアップロードしている。詳細は<https://www.youtube.com/watch?v=ep3dIzqFIU>を参照。

日刊木材新聞

令和3年4月2日 掲載